

新潟県

平成2年

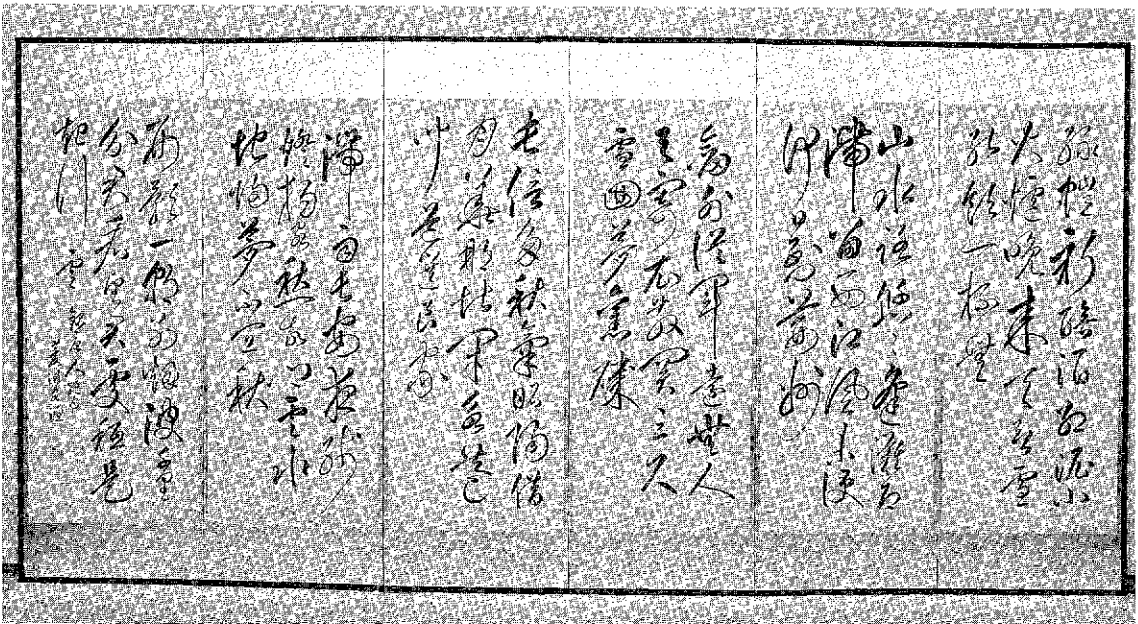
公民館月報

9月

第451号

対談 いま、公民館を……

～生涯学習社会、公民館の可能性と限界～



とうひとのせつくをしるす
 卷 菱湖「録唐人絶句」
 江戸時代末期墨書六曲屏風
 新潟県美術博物館所蔵

新潟市に生まれて巻町で育ち、やがて江戸に上って亀田
 鵬斎に入門。学問としての書と、酒の楽しみ方を学んだ。
 澄明瀟灑な書は近代書道の源となった。

第2回編集委員会

本会四十周年記念誌

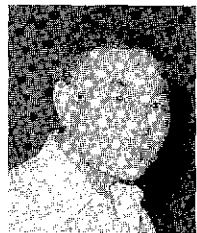
編集内容固まる

原稿執筆への協力を要請

去る八月二十八日 集委員会が開催された。
 (火)新潟市中央公民館 第一の協議内容は、公民館月報の編集について、第二は県公民館創立四十周年の記念誌の編集についてであった。

月報の実践記録(百館百様)に関しては、特色ある活動を進めている公民館について、上・中・下越代表の編集委員から、情報の手入と、執筆依頼を進めることにしたものであるが、当該公民館の若干の戸惑いが見られたもののこの方式の定着化が進められつつある模様である。取材の偏りを除く上から、一層ひろめた方式であり、積極的な協力を望んでいる。

四十周年記念誌の規模内容が前後三回



綿密なページ建ての検討をする編集委員の面々

の協議によりようやく固まった。それによると、体裁は、B5判、四百頁、上製製本とし豪華な記念誌にしたいとしている。なお、内容については、県公

にいがた生涯学習フォーラム印象記 生きがいと地域づくりの連動を

長岡市中央公民館 金山 茂

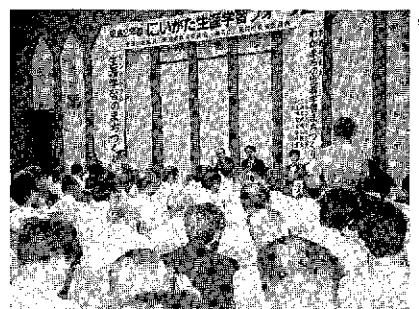
新潟県教委では、長岡市・市教委と共催でこのほど「にいがた生涯学習フォーラム」を開催した。

いま、公民館関係者にとって「生涯学習の推進と公民館とのかかわり」が重要なテーマであることから、地元長岡市中央公民館の金山茂氏から大会の模様をスケッチしてもらった。

酷暑の
 続く八月
 二十四日、
 長岡市立
 劇場・長
 岡市役所

連 四十年の歩みのうち後半二十年(昭和四十七年までは二十年誌にあり)に関する略年譜、その後の二十年、県公民館大会の歩み、二十年を回顧しての座談会、県公連役職員一覽等々に七十ページを費す。各市町村公民館の現状紹介に三百三十ページを用意したいとしている。

次期評議員会の了解を得て、本格的に動き出すことになるが、その節は原稿執筆について積極的な協力を望んでいる。



は、具体的な実践と提言があり、熱心な討論と意見交換が行われた。

生涯学習のねらいを、地域の人々が自己開発により生きがいを持つことと、地域づくりに連動すること。学び・結び・さらに地域づくりに発展させねばならぬことを痛感した。充電(学習)と放電(地域への文化活動等)の関係を重視した学習の深化・拡大こそ本物であろう。

さらに、巾広い学習要求に対応する総合的立場でのネットワーク化と地域の特性を生かすことが今後の課題であろう。形(構想)も大切であるが、市民による市民のための具体的実践活動に着目し、その活動こそ生き生きとしたかもユニークな生涯学習の展開が期待できるのではなかるうか。

公民館のあり方についての直接的な討論はなかったが、生涯学習の意義と重要性について

講演があり、参加者はそれぞれ今後のあり方に大きな示唆をうけた。

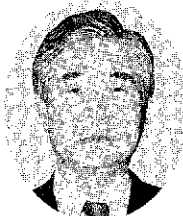
公開講座・夏休み子供映画会が行われ、市役所大会議室・中会議室では「生涯学習まちづくり事例発表会」とシンポジウムが行われた。午後は開会式・記念講演があり、参加者はそれぞれ今後のあり方に大きな示唆をうけた。

関プロ公研集会第18部会を担当

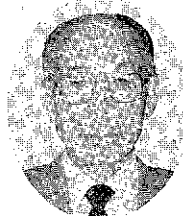
公運審の任務と役割

長岡市の場合を發表

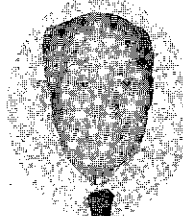
関プロ公民館研究会で当県 長星野徳三郎氏が、また、司会が受け持つ部会は、第18部会都市公民館における公民館運営審の公運審委員佐藤貞正氏が当た実践発表は長岡市の公運審委員



吉川氏



佐藤氏



星野氏

長星野徳三郎氏が、また、司会には、新潟市坂井輪地区公民館の公運審委員佐藤貞正氏が当たることになっている。去る八月二十九日、新潟市中

中央公民館の会議室で、延々三時間わたる入念な打ち合わせを行い、万全を期していた。

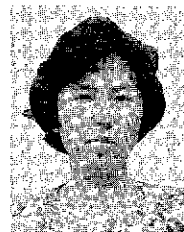
なお、助言者は、この三月まで新潟市西地区公民館の公運審委員であった吉川弘新潟大学教授(現国立横浜大学教授)が当ることになっている。新潟県の実情に詳しい吉川教授による適切な助言と指導を受けられるものと期待される。

辛口

女性の社会的存在の数値に等しい。参加が言われて久しい。たしかに、様々な場面で女性たちは元気な感じがする。だが、政策的決定の場への参加となると、まだまだ少ない。審議会等への女性登用は、アリバ

社会参加と学習

倉元正子

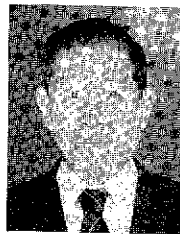


思う。特に、生活者としての女性の視点こそが必要なのではないか。しかし、長いことカヤの外に置かれた女性の意識を喚起するためには、学習の機会つ

公民館が、自ら問題

川柳からみた公民館

佐藤久恵



「山北町 川柳を愛する会」の川柳を讀むと、利用者の公民館についての理解と意見・要望がわかり、公民館運営上参考になります。

まず、理解の面から述べてみましょう。

一、公民館の役割

町造りめざす人の輪公民館 公民館地域興しの核となり 文化の灯明るく照す公民館 研修は集落挙げての公民館 集まって笑顔で話す公民館 郷土愛築いて光る公民館

さすがは川柳人、公民館の役割を理解しているのは、心強い限りであります。

二、公民館の事業

敬老会飛入張り切る敬老者 一年の成果を見せる文化祭 来賓も大汗かいてる運動会 館報に駄作が載って赤面し

どれも準備に時間のかかる大きな事業で、特に館報発行は編集者には頭の痛いものであります。しかし反面、長所を見抜いてくれた川柳もあります。

公民館主催で気楽に参加する

公民館歳時記 (5)

館長・役員員の忙しさ、苦勞に対しての同情であります。「幹部」は「牽引車」でもありますが、後から押す手押車でもなければなりません。時と場合を考えて、どちらかになることが必要であります。

四、意見・要望

公民館多少の固さ許される公民館行事で日が暮れる文化祭文化の町に恥じぬよう

その町の明るさ暗さ館から憲章を飾りとする公民館

一句は、固苦しさを避けよ、二句は事業の精選、四句は、明るい公民館への要望であります。

最後句は、公民館にとり片時も忘れてはならない事柄であり、利用者もまた、肝に銘ずべき大事な心掛けではないでしょうか。(山北町 公民館長)

本年よりマナーの良さが身を守る(高齢者交通安全句問)

中越地区公民館大会が去る七月三十日、見附市中央公民館で開催された。そのメインイベントがここに紹介する対談「公民館の可能性と限界」である。

現職のベテラン主事四氏(磯部二十一年勤務、猪俣十六年の後昨年から現職、北村四年のボランティアの後今年から現職)が先輩(田村)この道一筋で退職、現在は公民館を愛する一市民)から、忌憚のない意見を聞く形で対談が進められた。進行係は北村。

(内容の要約並びに構成の責任は編集子)

公民館の今昔

北村 ただ今から対談を聞きま

磯部 私は公民館に勤務して20年。時代の流れがよくわかります。はじめの頃は、婦人会も青年団も活発で、公民館の事業はさほど苦勞はしませんでした。今は青年団はずでに崩壊し、婦人会もかすかな活動です。昼間は、三条・吉田方面への出稼ぎで人がいない。だから、公民館は昼間の事業はできないほどに変わりました。

猪俣 栃尾では、六年前(以前いたころ)は昼間の事業が出来なかつたのに、昨年来てみたら昼間の事業がいくつ開設されているのには驚きました。趣味・娯楽的なものが多くなっていますが、それでいいのかという疑問も感じています。

北村 住民の意識や行動様式の変化に応じて公民館事業の在り方に検討を加える必要があると思うのですが、その点を。

磯部 出雲崎では、中央公民館がデラックスになりました。すると住民は利用しにくくなったと言います。利用者の心が変わり、それに対応する職員も心も変わったのでしょうか。

猪俣 私のところでも、以前は古い役所あつたせいか気楽

に利用できたのに、今は文化センターの一部を公民館として入るので入りにくいという嘆きを耳にしています。



北村 見附市では旧村単位に公民館が建てられ、中央公民館からは独立した、いわゆる並立館方式で運営されています。

田村 学校に例えると、町村合併でどんなに規模が大きくなっても中央小学校というものはありません。みんな地域の固有名詞をつけています。設置方式で見附市の体制が中越地区では一番ではないですか。

公民館のデラックス化は大いに結構、住民の不評を買うのは施設管理の姿勢によるのではありませんか。公民館は役所の出先ではない筈です。

地域を見つめよう

北村 公民館の事業にうつります。公民館は学習の機会を提供するに当たって、どんなことを目安にしたらいですか。

磯部 いかにして人を集めるかに苦慮した時代がありました。そのころは、ただ集めたいという気持ちだけが空回りをして、

私どもの努力は徒勞におわりました。或る時、住民は何を望んでいるのかを調査してみたわけです。すると、職員が考えていた住民意識と随分ずれるところとが分かりました。職員の独善的な企画ではだめだといえことがよく分かりました。

北村 十年ほど前、十日町市公民館の「あなたにとって結婚とは」という青年向けの講座を受講しました。当時、私自身が結婚を考えていたこともあって受講したのでしたが、5回で編成されていきました。学習内容の適切さやきめ細かさはもちろん、各回の課題も全体を貫く趣旨も体系的に組まれていて、その整合性の見事に感服しました。公民館主事の専門的力量的の一つはそんな課題把握の確実さと、それを体系として編成する技量の豊かさに有るのかもしれない。

猪俣 最近社会教育の調査をしました。住民が公民館をどの程度活用しているかを見ますと私が予想していたよりもずっと少ないのです。あれだけ職員が苦勞しているのにと考えるとがっかりしてしまいました。



また、以前あまり価値を見い

出さなかつたイベントが大事だと思ふようになりました。というのは、やり方によっては住民を巻き込むことが出来、それによって人材発掘も出来ますし、学習活動に組み込むことも出来るのです。

田村 公民館職員は、地域をもう一度見直すことです。最近施設の中に入りこんでしまつて職員が案外多い。だから、地域が見えなくなっています。地域に住んでいる人たちがどういふ課題をもっているかを知ることです。また、その生活課題の前に、どういふ人たちが住んでいるのか、そして、その人たちと公民館とをどう結びつけられるかがポイントです。唄にも佐渡おけさだけでなく新潟おけさや出雲崎おけさなどがあるようにそれぞれ地域の特性を生かした活動をするということです。

公民館の学級・講座は形だけ残つて魂がどこかへ行つてしまつたように思います。学級・講座は必要があつて開設しているものです。地域の人たちの要求が多様化してくると、学級・講座だけでなしに、行事活動や集会活動などイベントと学級・講座との関連で見直して、みんなが望んでいるものにするのです。義理で参加する十回の講座と一回の行事に真剣に取り組む

公民館を……
民館の可能性と限界

大雄 俊文
達友 茂弘
村部 侯村
田磯 猪北
育係長
教育主事

対談 「いま、 ＜生涯学習社会、公

講師 元十日町市公民館長
出雲崎町公民館社会教
栃尾市公民館 主査
見附市中央公民館社会

のとどっちがためになるのか評価の別れるところです。

北村 「地域を見つめる」ことは公民館の基本命題でしょうが、今の時代は、私どもがこだわるほど「地域性」というのは無いのではないかと思うのですが、つまり、一人の人間として学習する喜びとか、充実感というのは地域性とは別の問題ではないかと思うのですが。

田村 公民館は地域の課題を解決する実践の場ではありませぬ。課題の本質がどこにあり、解決の方途を見いだす場が公民館です。主体的に取り組むための人づくりが公民館の役割です。もともと地域に目を向け、ア

秋の道

心のゆとりを育む

ンテナは高く、目は大きく」という姿勢が大事でしょう。

すぐ近くの（歩いていける範囲の）公民館に行けば、図書や資料が揃っている。訪ねて行けばお茶の一杯も飲めるし、職員で手のあいた人がいれば話し相手にもなってくれる。そんな公民館を一市民として望んでいるわけです。公民館が地域に密着することこそ、公民館四十年の足跡に学ぶものだと思います。

磯部 出雲崎は江戸時代の「天領」の街でした。その研究のために公民館で、全国の「天領」の街と提携して「天領ゼミナール」というネーミングの講座を開設しました。（参加者は、佐渡や福島県から、遠く九州から来た人もいました。）その講座によって、町の一千戸の街並みの珍しいたずまいが問題となり「街並み保存」の運動がおこり保存会が活動していますし、佐渡から運ばれてくる「金」を一晩蔵の中に納めるご金蔵の跡地も推定され、発掘の運動が興り、実現に向かって動いています。住民の学習活動の結果が地域づくりへと発展した事例ではないかと思えます。



田村 貴重な実践ですね。

先程「地域の生活を考える集會や講座を…」と申しましたが、だからといって、習いごとなどはだめだと言つて敵視したり民間のセンターにお任せ、というのではありません。趣味や教養であつても、地域の人が望んでいることが出発点です。ただし視点をはっきりさせることです。例えば、「生け花教室」で考えてみます。公民館で実施する「生け花講座」は講師も教室もみんな公民館が世話してくれるので、便利で安あがり」という発想では感心しません。やがて、そこから脱皮して、野に咲く自然の草花を活用して「花を愛する文化を育てる」地域づくりに結びつかせるのが公民館の事業であろうと思えます。

③館長の諮問機関ですが、実質的には、公民館運営の中核となる重要機関。公民館の活性化は、公運審の活躍による。

このように「制度」として置かれてはいる運審を活かさないのは宝の持ち腐れです。公民館は社会教育の施設です。にも関わらず行政の末端機関という考え方が普及しています。それが、社会教育委員の会議が多くなり、公運審の会議を少なくしている理由でしょう。また、当事者の中に公運審を厄介者扱いにしている傾向はないでしょうか。運審の存在意義（何を期待するか）をはっきりさせ、そして大いに活用してください。

公運審は宝の持ち腐れ
北村 公運審の問題にうつりま
す。田村さんどうぞ。

田村 公運審の開催回数や委員
数が年々減少しているが、これ
は公民館と市町村にとって大き
な問題です。

①公運審は必置制、これは社会
教育施設の中で唯一のもの。
②館長の選任について、教育委
員会は公運審の意見を聞かなければならないことになっているの
に、法律違反をしている教育委
員会もあると聞く。



は宝の持ち腐れです。公民館は社会教育の施設です。

でもある。こんな中で、職員の熱意と努力のみに期待しようとするところに限界を感じる。せめて、県や県公連が昔やった長期の公民館職員研修を復活して欲しいもの。

田村 各公民館が公運審の会議を今より一回ふやすだけでも活性化すること請け合ひ。そこに可能性を見いだせる。とにかく、「地域における公民館の役割」についてとことん話しあつてください。

改めて、文部次官通牒「公民館の施設運営について」、社会教育法と全国公民館連合会「公民館のあるべき姿」と今目的指標、同全公連第五次専門委員会答申「生涯学習時代に即応した公民館のあり方」を学習しましょう。非常勤館長は地域の良識の代表者です。それなのに、年間の手当てが一万数千円という市町村があると聞きますが、どうしたものでしょうか。今どきの日当程度で、館長を遇する額ではないと思えます。

公民館の可能性と限界と

北村 最後に公民館の可能性と限界について一言ずつ。

磯部 生涯学習という言葉に踊らされないことだと思います。本来の在り方を失わないことが活性化に結びつくことになると思っています。

猪俣 職員が少ない。勤務年数のサイクルが短期間化している。専門的知識や技術を得ようにも、職場内で指導してくれる先輩を求められないし、超多忙

ここにおいで教育長さん、社会教育課長さん、社会教育行政機関と公民館との関係を踏まえて、生涯学習時代の中核施設と言われる公民館の非常勤館長の遇し方と活用の仕方を真剣に考えてください。（以上）

秋の全国交通安全運動

浦川原村中央公民館

揺れ、悩み、燃える

——ミュージカル公演に賭けた村の若者の軌跡——

見切り発車

若さゆえの決断

人は心の中に、日ごろ思っていることを一気に爆発させるものを持っているものである。

行政は時間をかけ、計画を立てて実現に持っていくが、一般の人たちは即断実行の場合が多い。どちらがベターかは言えないが、ここに紹介する村の青年のミュージカル招致劇も、即断即決の、まさに台風のようなドラマであった。

事の発端は、県連合青年団の理事である市村君(元青年団長)にある。平成元年三月、彼は「日青協」の研修で、ミュージカル「さらばノ鯖の目ん玉」を観て感激。これをぜひ村に呼びたいとひそかに思い、心に温めていた。私が彼の気持を知ったのが六月。まさか実現するとはその時は思ってもみなかった。その後、二か月を経た八月初旬、青年団ではミュージカル公演のた

めの初会合が開催された。

準備作業も多く、時間不足の感もなくはなかったが、結果的に十名余の理事が「GO/サイン」を出した。若さによる決断である。しかし、その事業がどれだけ大変なものか知らないのが大方であった。そんな中で、ミュージカル公演に向けて、とにかく発車した。不安要素の多い見切り発車だったのである。

さあ、それからが大変。看板づくり・入場券の作成・PR紙の作成、それらの事業以前に仲間づくりから始めなければならぬ状態。総費用二五〇万円、これも重くのしかかっていた。寄付・広告料とは別に、入場者八百〜九百人がいないと赤字。

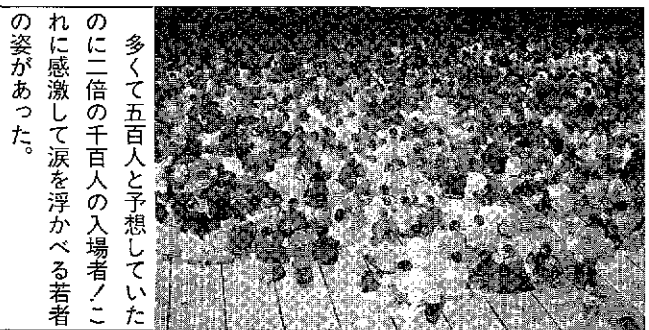
“SOS”のハガキを三百人の若者に

上越市に車で三〇分の位置にある浦川原村とはいえ、人口わずか四千六百人余。その四分の一を集めようというのだから厳しい。

私も若者たちの中に入って行

った。とはいっても、陣頭指揮する立場ではない。アドバイスしても動いてくれなければどうしようもない。辛いところである。八月末にようやく実行委員長が決まった。看板・PR・総務などの役割も決まった。しかし、大半が上越市に勤務している若者たちであるため、夜の会合もままならない。一回目と二回目ではメンバーが違うのである。そんなことから、とにかく手助け頼む」とSOSのハガキを村の若者に三百枚出した。が新規に集ってくれたのは二〇名余り。

九月に入り、入場券捌きも始まった。二〜三人が組となって各戸へ回る。が、モジモジして声を出せない。そんな状態のため、公演一か月前になっても売上げは二百枚。さすがに実行委員長も揺れ、悩みが見えてきた。この思いは皆同じであった。だが、このころから青年団OB・村のバックアップにより徐々に明るさが見えて来た。と同時に若者たちも最後の頑張り



多くて五百人と予想していたのに二倍の千百人の入場者。これに感激して涙を浮かべる若者の姿があった。

成功に涙する若者たち。

努力したかいはあった。その成功に涙する若者たちの気持ちがよく分かる。苦しく辛いことはなるべく避けようというのが最近の若者である。当初は甘い部分が無かったわけではない。しかし、雨の中でカッパを着ての作業、徹夜をしてのビラ印刷など、中盤から後半にかけての頑張り若者ならではのバイタリテイであった。まさに彼等のエネルギーの燃え尽きる一歩手前までの頑張りであった。

この大イベントの後、村人の若者に対する目が変わった。若者たち自身もまた自信を持った。と同時に仲間意識も強くなった。この若者の力を、今後にどうつなげることが出来るか、が今後の課題であるわけだが、すでに一つの成果が現れている。この七月に行われた郡の青年大会に全種目出場、これはかつて無かったことである。さらに、八年ぶりに優勝を果たしたことがある。この流れが、村のまったり、村民体育大会2大イベントを受け持つことにつながっている。

次代を担う若者たちの可能性を大いに伸ばし、その活性化のために今後も努力したい。(浦川原村公民館長補佐 荒木政幸 記)

サークル交流

三十年の歴史・双葉会 小千谷市中央婦人学級

去る四月二十一日、創立三十

周年記念パーティを開き、生みの親(当時公民館主事)渡辺三省先生をはじめ、育ての諸先生と三十年の足跡を語り、レクリエーション等で盛会のひとつを過ごした。公民館で婦人の指導者をつくるために中央婦人学級を計画したのが、双葉会の発足になったのだと、渡辺先生は当日の祝辞で言われた。二年後に自主運営となり、些

か心細かったが、関係者の助言や指導があり、六年めに文集「ふたば」を発刊、これが会員の心を更に結びつけた絆となったのである。

五十二年二月、明正選挙推進の民間団体、小千谷白ばら会創立の際は、双葉会員が率先して多数参加、一か月一回は政治学習も行ってきた。近年は街頭活動もし、投票率の向上にひと役を担っている。

今の目標を「情味を豊かにする女性を目指す」とし、今後も禅語「不失花」、失せざる花でゆきたいと一同学習に励んでいる。

(双葉会代表 木村楨子)

「キーボードを囲んで」 畑野町パソコン同好会

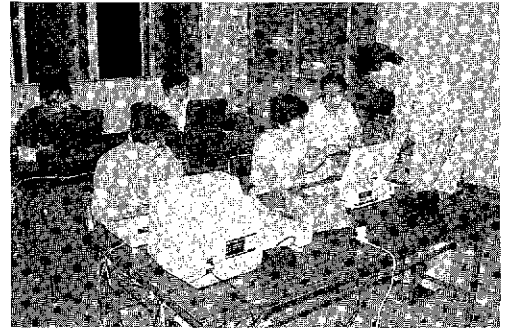
畑野町公民館主催のパソコン教室がきっかけで、その後同好会を結成し五年目になります。発足当時は、会員五名、会のパソコンもなく、個人が持ち寄って使用していたのが、現在では年会費を積み立てパソコン十五台を設置し、会員数二十七名で構成されています。

会では、月二回の勉強会を開いて、それぞれの目的と能力にあったものを選択できるように、パッケージソフトの操作法、プログラム言語、ブライントッチの習得等のコースに分かれて勉強しています。

(三田 憲一 記)



時には優雅を求めて



職業や年齢、そしてパソコン歴もまちまちで中には全くパソコンに触れたことのない人もいます。普通パソコン同好会というところ、ある程度のパソコン経験のあるマニアの集まりを想像しますが、我が同好会はそのような集まりではなく幅広く多くの人にパソコンを理解してもらうために、少しでもパソコンに興味のある人の入会を大歓迎しています。

白根市庄瀬・小林地区公民館主事

相馬 道雄氏 (30歳)

白根市生涯学習推進基本構想が策定され、推進策の一つとして、今年度から生涯学習を通して地域づくりを、地区公民館を拠点にして推進することにした。彼は中央公民館勤務一年を経て、現在二つの地区公民館の業務を切り回す社会教育の先端に携わって四年目を迎えている。



公民館に異動になる前は七年間農政畑におり、地域の人たちとは、

素顔拝見

羽茂町公民館主事

中原 岳史氏 (31歳)

「中原さんお願いします。」事務所へ掛かる電話の三分の一は彼へ。それもそのはず、社会体育をメインに、植物園から各種イベントまでを担当。さらに昭和六十一年からの県連合青年団常任理事(六十二年度には同副団長)と、オンデコin原宿の事務局長を併わせて、見事に務め上げている。

それもこれも六十年に、街青年協議会長に推されてから。数度の海外渡航で培われたセンスを生かし、内外に大活躍

そのときの仕事を通じてのなじみも多く、「積極性こそあなたの生き方を変える」をキャッチフレーズにして、公民館事業を展開し、地域づくりを推進している。発想が豊かでひとなつこい笑顔が彼の身上、市民の信頼も厚く、公民館ではなくてはならない人となっている。

現在三〇歳、美人の奥さんと二人で新婚生活を楽しんでいるが、悩みはまだ愛のあかしがないこととか。この鳥の飛来を期待したい。

(白根市中央公民館副館長 斎藤忠良 記)

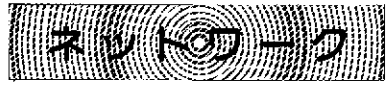
の毎日。若さと、近代感覚は町はもとより、佐渡・県の牽引的存在として育ちつつあることは周りの誰もが認めている。

「デートをする時間が無い。」とは言うものの、その実、未だ女性より海外探求に魅力を感じているようだ。

昨春には、国社研で社教主事講習も終了し、生涯学習社会の新星としても、注目されている。

(羽茂町公民館 藤井史男 記)





柏崎市制50周年記念事業

市民 ミュージカル

水色の世紀

まちづくり・ドラマスペシャル柏崎

柏崎市教育委員会で
は、市民館連絡会議
会と市コミュニティ連
絡協議会の共催で、市
民ミュージカル「水色
の世紀」を上演する。

このイベントは、市制50周年
記念事業として「まちづくり」
にねらいを置いたもので、柏崎
市民により政策上演するオリジ
ナルなもので、関係者は、その
成功のために、最後の追いこみ
にかかっている。

なお、プログラムは次のとお
りである。

内容は
水は生命の根源であり、生
命を支えるものとして不可欠
のものである。そして、この
「水」を人類に、生物に恵ん
でくれるのは「豊かな自然」
である。この自然環境を柏崎
市民がいかに大切にしてきた
のか。そして、また「水」を
守り、「水の害」から「生命」
を守るために、どんな苦勞を
してきたのかをみんなまで考
え、次代に豊かな自然を引き
継ぐことを誓いあう。

日時 平成 2 年 10 月 7 日 (日)

屋の部 PPM 1 時 30 分開演

夜の部 PPM 6 時 30 分開演

上演時間は 1 時間 30 分

会場 柏崎市民会館大ホール

入場料無料

なお、水及び自然環境保護の
ためのパネル展を同時併設して
いる。

展示内容

○市内各地区の銘水、いわれの
ある水の紹介

○上、下水道施設設備の紹介

○森林関係の資料展

○安政町野鳥自然公園の
野鳥写真の展示

○その他河川、滝等の紹介

第二回翡翠と日本文化を考える シンポジウムの開催

糸魚川市民会館で

糸魚川市民会館で

中心に開催される。

このシンポジウムは、過去
二回の成果を踏まえて、特に古
代日本文化における「玉」に焦
点をあて、その意義を探りたい
としている。

第一日 九月二三日(日)

○ヒスイの郷見学会

・自然史コース 百名

・考古コース 五〇名

・参加費 三千五百円

・AM 9 時 40 分 PM 4 時

○ヒスイの郷レセプション

・会場 糸魚川公民館

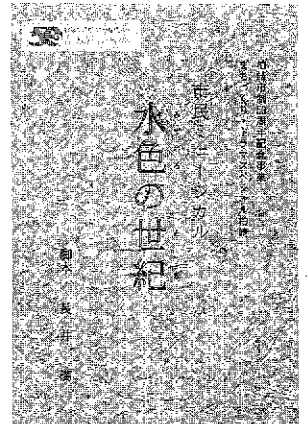
・参加費 二千円

・PM 5 時 PM 7 時 30 分

第二日 9 月 24 日(月)日曜振替日

○シンポジウム

内容は上表のとおり



おわびと訂正

7 月号四、五面の「公民館事
業入門(4)」の記事中に誤植があ
りましたので次のとおり訂正い
たします。

四、二段左から九行目の閉館
を開館に。同五段左から十三
行目の閉館日を開館日に。同
五段左から九行目の「職員の
過度の負担」を「職員に過
度の負担」に。

五、最下段左から五行目の
「…計数化された活動の記録
である…」を「計数化された
計画であり、決算は計数化さ
れた活動の記録である…」に。
以上執筆者の田村達夫氏に深
くおわび申し上げます。

(上村)

シンポジウム

AM 9 : 00 ~ PM 4 : 30

会場 糸魚川市民会館大ホール
テーマ ヒスイの輝き—甦るその神秘
会場 糸魚川市民会館大ホール
総合司会 同志社大学教授 森 浩一
基調報告

- ・「糸魚川・青海の玉文化」 糸魚川市教育委員会 木 島 勉
 - ・「北海道の玉文化」 北海道開拓記念館 野 村 崇
 - ・「大和の玉つくり」 檀原考古学研究所 関 川 尚
 - ・「出雲の玉文化」 玉湯町立出雲玉作資料館 勝 部 衛
 - ・「韓国の玉文化」 暁星女子大学校名誉教授 李 殷 昌
 - ・「仏教における「玉」」 立正大学教授 坂 詰 秀 一
 - ・「万葉集と玉文化」 同志社大学名誉教授 上 橋 村 光 晴
 - ・「奴奈川姫伝説とヒスイ文化」 和洋女子大学教授 寺 守 並
 - ・「日本の宝飾界とヒスイ」 中央宝石研究所長 森 芽 原
- まとめ 同志社大学教授 新潟大学名誉教授
参加費 無 料

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】

【電話・新潟 (025) 224-6073】

発行人 会長 木下 清 一

編集人 事務局長 上村 捨二郎

【定価1部 120円 年刊 1,440円】